

町田薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画 ～Ver. 2～

2022年12月

町田市

目次

1 はじめに	3
1-1 計画改定の背景.....	3
1-2 計画の目的.....	3
1-3 計画の期間.....	4
1-4 計画の対象.....	4
1-5 計画の位置づけ.....	5
2 現状と課題の整理	6
2-1 前計画の方針に関する取組と成果.....	6
2-2 環境の変化による新たなニーズ.....	13
3 計画の構成	14
4 基本理念と基本方針	15
4-1 基本理念.....	15
4-2 基本方針.....	16
5 四季彩の社の未来図	17
6 基本方針に対応する取組	18
6-1 基本方針①.....	19
6-2 基本方針②.....	21
6-3 基本方針③.....	23
6-4 基本方針④.....	25
6-5 基本方針⑤.....	27
6-6 工程表.....	29
7 四季を織りなす四季彩の社	30
7-1 春（3～5月）.....	31
7-2 夏（6～8月）.....	33
7-3 秋（9～11月）.....	35
7-4 冬（12～2月）.....	37
8 未来への継承	39
9 計画の推進体制	40
参考資料	41
1. アンケート結果.....	41
2. 計画の策定体制及び検討内容.....	53
3. 施設概要.....	55

1 はじめに

1-1 計画改定の背景

町田薬師池公園四季彩の杜（以下、「四季彩の杜」という。）は、町田市を代表する公園である薬師池公園をはじめ、西園（ウェルカムゲート）、リス園、ぼたん園、ダリア園、七国山緑地保全地域など、観光施設や豊かな自然環境、歴史的資産を有した市の中心部に位置する広域なエリアの総称です。

四季彩の杜は、クヌギやコナラから構成される雑木林や杉・ヒノキ植林からなる樹林景観、果樹園や畑地からなる農耕地景観、そしてそれらに住宅地の景観が調和し、谷戸の景観が残る魅力的なエリアとなっています。

また、エリア内には、野津田薬師堂をはじめとする寺社仏閣、鎌倉古道やそれに由来した鎌倉井戸、石坂昌孝の墓などの自由民権運動に関連する歴史施設が分布しています。

町田市では、四季彩の杜が“地域への愛着や誇りが醸成されるような観光拠点”となることを目指して、2014年6月に「町田薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画」を策定し、これまで多くの事業を展開してきました。こうした取り組みの成果により、四季彩の杜全体の来園者数は毎年増加しており、2021年度は125万人と過去最高の賑わいをみせています。特に、2020年4月に開園した西園は、「カフェ・レストラン」「芝生広場」「ラボ・体験工房」など、新たな公園の楽しみ方を提供することで憩いの空間を生み出し、市内外からも多くの方が訪れるとともに、来訪者から高い満足度を得ています。

一方、エリア全体でのブランディングを進めるため、ブランドロゴやブランド・アイデンティティを定め、一体的なプロモーション活動を行ってきました。しかし、アンケート調査では「町田薬師池公園四季彩の杜」の名称に対する来訪者の認知度が不十分であるとともに、施設間の連携による相乗効果が効果的に発揮できていない状況にあると表れています。

また、2022年4月にスタートした市の新たな基本構想・基本計画「まちだ未来づくりビジョン2040」に掲げる“なりたいまちの姿”に至るための関連する政策（「政策3 自分らしい場所・時間を持てるまちになる」、「政策8 思わず出歩きたくなるまちになる」）の実現に向けて、四季彩の杜がさらに魅力的なエリアとなるように、各関係主体が一体となり取り組む必要があります。

1-2 計画の目的

本計画は、前計画のコンセプト等を継承しつつ、その後の環境の変化を踏まえ、四季彩の杜が「町田のシンボル」となるためにブランディングや整備、実施事業の指針となるよう前計画のバージョン・アップを図りました。

にぎわいを創出するとともに、効率的で持続可能なエリア管理運営を行うための、これからの四季彩の杜の方向性を示すことを目的とします。

1-3 計画の期間

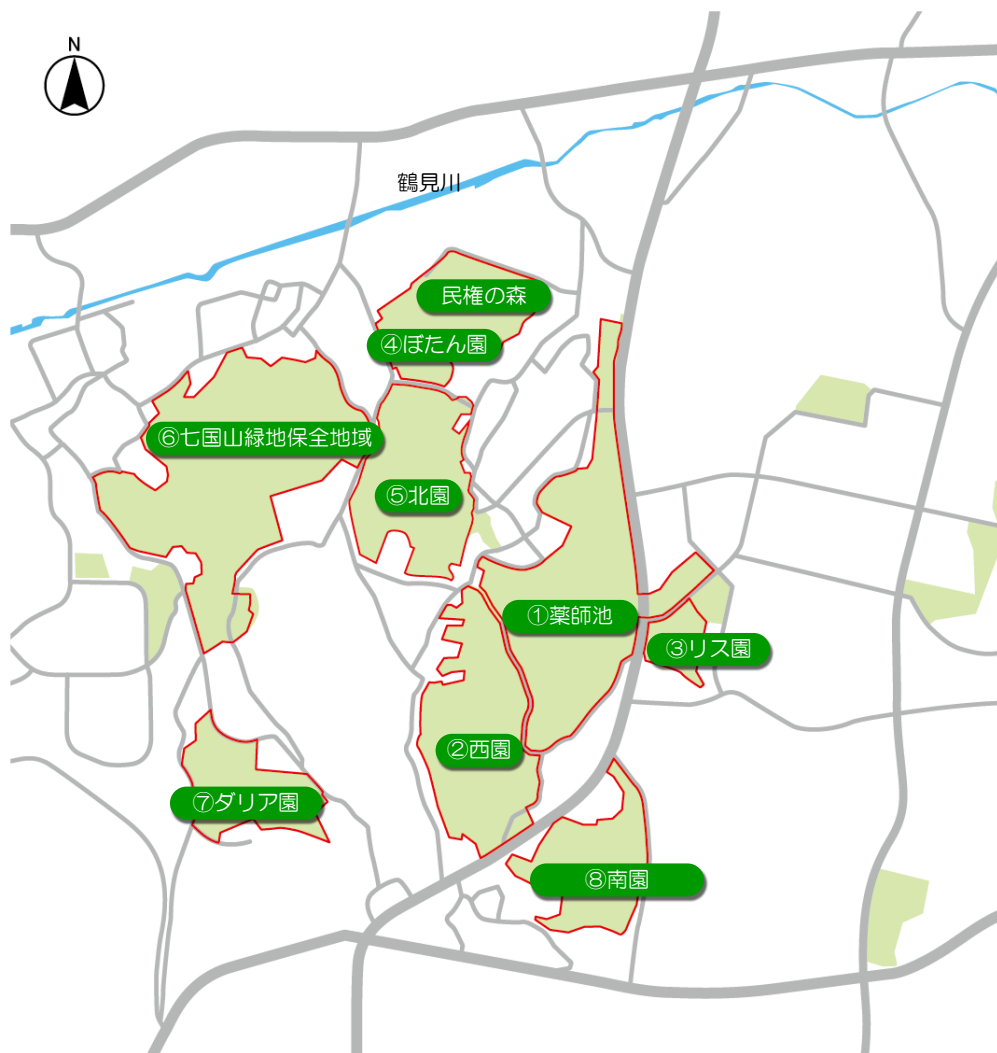
本計画の実施期間は2023年度から2032年度の10年間とします。

また、2033年度以降にも継承したい取組みについて「5 四季彩の杜の未来図」と「8 未来への継承」において記載しています。

1-4 計画の対象

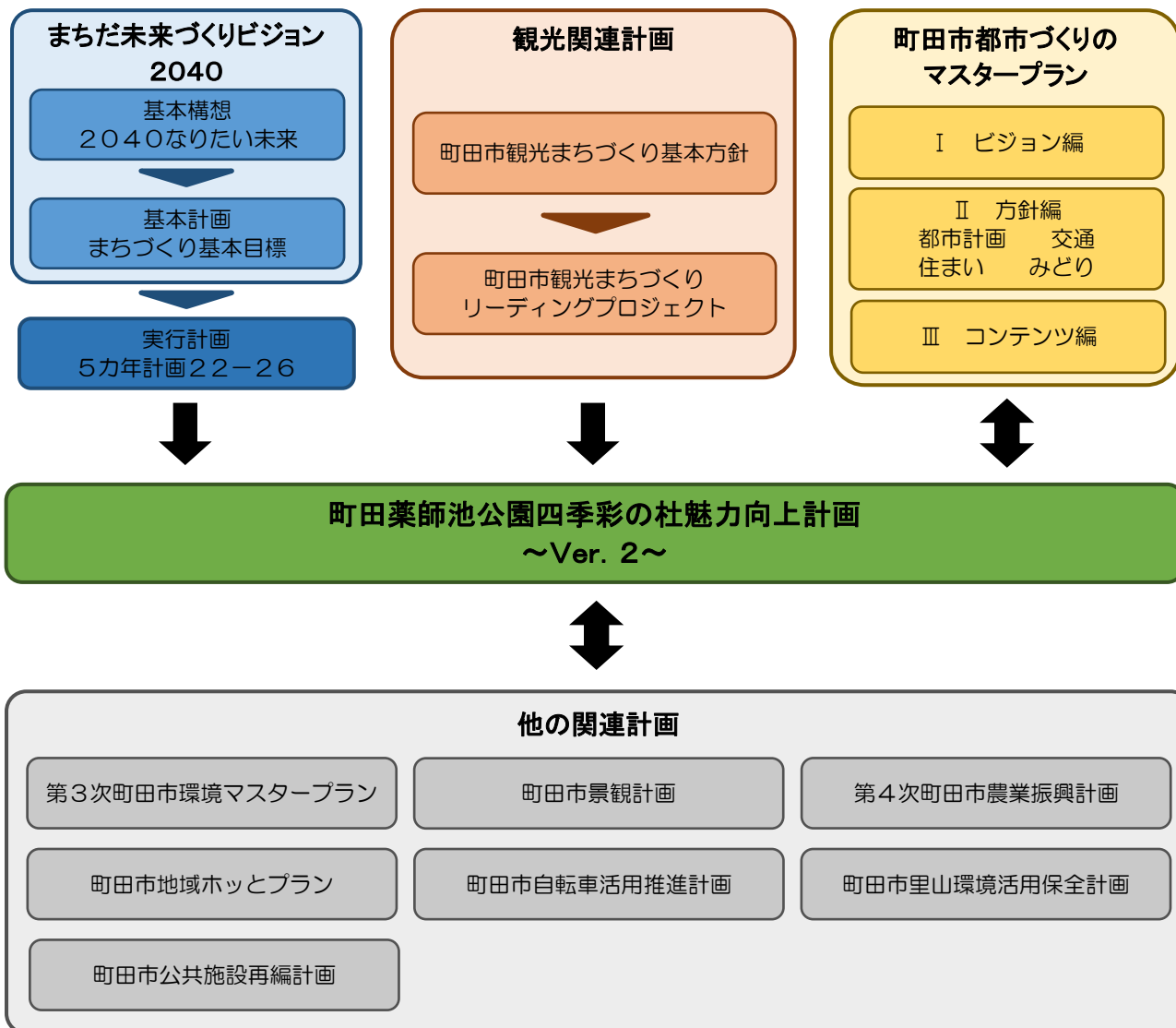
本計画の対象は、四季彩の杜を構成する以下のエリアとします。

- | | |
|--------------------------------|-----------------------|
| ① 薬師池（フォトサロンを含む） | ② 西園（ウェルカムゲート） |
| ③ リス園 | ④ ばたん園（民権の森緑地保全地域を含む） |
| ⑤ 北園（七国山ファーマーズセンター、ふるさと農具館を含む） | |
| ⑥ 七国山緑地保全地域 | ⑦ ダリア園 |
| ⑧ 南園（えびね苑） | |



1-5 計画の位置づけ

本計画は、まちだ未来づくりビジョン2040及び町田市観光まちづくり基本方針に対応します。また、町田市都市づくりのマスタープランについても対応するとともに、コンテンツ編の「まちづくり構想等」に位置づきます。さらに、他の関連計画と整合を図りながら事業を推進します。



2 現状と課題の整理

2-1 前計画の方針に関する取組と成果

現状と課題は、前計画の7つの方針ごとに、これまでの取組（実施状況）とその成果（事業による成果）に沿って次のとおりに整理します。

(I) 四季折々一年を通して楽しむことができる場

①実施事業

- 【ハード事業】ラボ・体験工房の整備、ライブラリー・라운ジの設置 など
 【ソフト事業】春フェア、紅葉のライトアップ、子どもday's、ブルーベリー摘み取り など



紅葉まつり2021

【事業による成果】

- ・草花を中心に四季を楽しむための選択枝は増え、一年を通して楽しめる場の提供が進んでいます。
→各種イベントの開催を通して、2021年度の各月平均の来園者は前年度から約6,000人増加しています。
- ・西園の開園により、一年を通しての来訪者は増加しています。
→2020年4月の西園開園などにより、2021年度の来訪者は125万人となりました。
- ・子ども向けイベントによって親子連れの来訪が増えています。
→子ども向けの図鑑や絵本を備えたライブラリー・라운ジや、お子様の誕生日会や地域の集まりなどに利用できるオープンキッチン付きのフリースペースであるラボ・体験工房を設置したことにより、親子連れの来訪者が増加しています。

②現状の課題

- ・課題1：四季を通じて花やみどりがさらに楽しめるよう草花を計画的に配置する必要があります。
→ぼたん園、えびね苑は花の開花時期に利用者が集中し、その他の時期にはほとんど利用者が訪れない状況となっています。来訪者がいつ来ても四季彩の杜のどこかで見どころがあるように四季彩の杜全体で開花時期を考慮して計画的に花を配置します。
- ・課題2：何度でも訪れたいくなるような好循環を生み出す場を提供する必要があります。
→2022年度に実施した施設利用者アンケート（以降、「利用者アンケート」）の結果、来園頻度は、約23%が初めての来園でした。
- ・課題3：子どもを対象とした場の整備やイベントのさらなる充実が必要であります。
→利用者アンケートの結果、薬師池公園四季彩の杜に求められるもののうち購買施設の他、「自然を活かしたフォレストアドベンチャー」や「子供を中心とした遊具や遊び場」が多くの割合を占めた結果となりました。

(II) 里山観光の拠点としての一体性の構築

①実施事業

【ハード事業】ウェルカムゲートの整備、四季彩の杜ホームページの開設 など

【ソフト事業】地域イメージアップイベントの適宜開催、地域内スタンプラリー、ウォークツアー など



四季彩の杜HP

【事業による成果】

- 総合案内所が設置され、HPやSNSが開設されたことにより情報発信拠点ができました。
→総合案内所の設置に加え、薬師池公園四季彩の杜ホームページやInstagram、動画配信を通じて情報発信を行っている。ホームページの閲覧数は、2021年度には32万アクセス以上あり、Instagramのフォロワーは2,000人を超えています。
- 施設運営連絡協議会の開催により、情報共有や連携イベント実施など一体性が構築されつつあります。
→四季彩の杜の各施設運営者や町田市観光コンベンション協会、町田市で構成する施設運営連絡協議会の開催により、情報共有や連携イベント実施など一体性が構築されつつあります。

②現状の課題

- 課題1：来訪者視点に立った総合案内所機能をさらに強化し、季節ごとの見どころや様々な来訪者ニーズを踏まえた情報を提供する必要があります。
→来訪者が増加した西園エリアへの来訪を契機とし、他エリアへの来訪者を増やすため、観光拠点としてのブランド力向上に取り組んでいきます。
- 課題2：地域内を巡るために各エリアが連携し、HPやSNSを用いて一体性をもった情報を継続的に発信する必要があります。
→利用者アンケートの結果、四季彩の杜の名称を知らない人が全体の約50%を占めています。また、2つ以上のエリアを利用した割合は78%でした。

(Ⅲ) 施設個々の魅力向上と町田を発信するソフト事業の継続展開

① 実施事業

【ハード事業】カフェ・レストラン、直売所の設置、池水浄化システムの整備、歴史案内板の設置 など
 【ソフト事業】しょうぶ・あじさいまつり、観蓮会、二ホンリス展示ブース設置、ダリアの名称公募 など



ファーマーズマーケット

【事業による成果】

- 新たにオープンしたカフェ・レストランや直売所が好評です。
→2021年度には12万人以上が利用しています。他の施設での飲食施設の追加設置の要望が多いです。また、定期的に行っているファーマーズマーケットは人気が高いです。
- 施設間連携イベントや各エリアで特色あるイベントを実施。積極的な情報発信によりメディアなどで取り上げられる機会が増え、四季彩の杜の認知度が向上しています。
→メディアでの露出がきっかけとなり、新たな顧客が来訪しています。

② 現状の課題

- 課題1：西園「カフェ・レストラン」は多くの来訪者で賑わいをみせています。この**好事例を分析**し、他の施設への改善に繋げていく必要があります。
→利用者アンケートによると充実してほしい設備や機能について、「屋内外の休めるところ(カフェ、ベンチ等)」や「食事ができる場所(レストラン等)」の割合が高いです。特にリス園においては利用者から飲食施設に関する要望が挙がっていることから設置を検討する必要があります。
- 課題2：既存施設の魅力を向上するために、**施設の老朽化や新たなコンテンツの提供**などに対応する必要があります。
→リス園や薬師池など、集客力のある施設における老朽化が目立つため、施設自体のリニューアルが必要です。
- 課題3：地域の自然や文化、歴史などエリアの特色を活かした**テーマ性のあるイベント**によって、**幅広いニーズに合う事業**を行う必要があります。
→利用者アンケートによると期待するイベントについて、「小動物とのふれあいイベント」や「ファーマーズマーケット」の割合が高いです。また、七国山には「鎌倉古道」やぼたん園には自由民権運動にまつわる記念碑といった様々な地域の歴史的遺産が点在しています。

(IV) 地域へのアクセス、施設間のスムーズな回遊性の実現

①実施事業

- 【ハード事業】地域共通サインの設置、駐車場の入庫レーンの整備、シェアサイクルポートの設置、西園前バス停の整備 など
- 【ソフト事業】公共交通利用の啓発、無料周遊バスの運行（春フェア、紅葉まつり） など



整備後の地域共通サイン

【事業による成果】

- 駐車場の入庫レーンの整備により、鎌倉街道の渋滞緩和に繋がっています。
→西園駐車場の整備に加え、約75mの入庫レーンを整備しました。
- 地域共通サインの整備により、エリア内移動のための利便性向上を図りました。
→西園整備をきっかけに、四季彩の杜の統一したサインを作成し、徐々に設置数を増やしています。
- 四季彩の杜西園前のバス停を2022年10月に新たに整備しました。
→連節バスの乗り入れも可能なバスベイが整備され、イベント開催時に連節バスを走行させるなど、渋滞緩和と公共交通機関の利便性の向上に繋がっています。

②現状の課題

- 課題1：鎌倉街道の整備による渋滞の解消とあわせて、駅からの案内をわかりやすくするなど公共交通機関の利便性を向上する必要があります。
→ハイシーズン時は渋滞が生じているため、公共交通機関の利用促進や、臨時駐車場のスペース確保等を検討する必要があります。2021年度の来訪者アンケートの結果、自家用車による来訪者数が約半分、自転車・バイクや徒歩による来訪者数が約1/4を占める結果であり、公共交通機関を利用した来訪者増加につながっていない状況です。
- 課題2：エリア内のさらなる回遊性向上のため、移動しやすさ、案内のわかりやすさが必要であります。
→利用者アンケートの結果によると、バスや駐車場、サイン等への「交通・案内の充実」への意見が多くありました。

(V) 利用の核となる拠点の整備

① 実施事業

【ハード事業】 ウェルカムゲート整備 など
 【ソフト事業】 ー



整備後のウェルカムゲート

【事業による成果】

- ゲートハウス機能を備えた西園の開園によって、利用の核となる拠点ができました。
→西園の年間来場者数は四季彩の杜全体の来場者数に対し、約50%を占める結果でした。
- 西園前のバスベイの整備により、ウェルカムゲートへの利便性が向上しました。
→現状の今井谷戸と薬師池バス停の間に新しいバス停を整備し、町田駅発着の本町田経由路線（町53・町55）などの一般路線に加え、臨時便の連節バスの停車も可能になりました。

② 現状の課題

- 課題1：エリア内の情報を一括で得られる拠点として**総合案内所機能を強化**、継続していく必要があります。
→総合案内所へ各施設の開花状況や駐車場の情報などの問い合わせが多数寄せられています。常時、最新情報を集約し、公開できるようにしておく必要があります。

(VI) 町田市民の参加・交流による相乗効果の醸成

①実施事業

- 【ハード事業】 農の体験施設整備 など
 【ソフト事業】 農業体験、菜種絞り体験、各施設が連携したイベントの開催、観光案内人養成講座 など



やくしの学び

【事業による成果】

- やくしの学びや農業体験などによって、市民参加や交流が行われている。
 →やくしの学びは、多彩なイベントがほぼ毎日開催されており、リピーターも多く人気となっています。
- 町田市観光コンベンション協会が地域ガイドの補強のために、観光案内人養成講座を行っています。
 →2022年9月、「まちだ観光案内人」が新たに17名誕生しました。薬師池公園の花しょうぶ・あじさいの案内ガイドや紅葉まつり、ぼたん園のガイドなどで活躍しています。

②現状の課題

- 課題1：地域と連携したイベントを継続していく必要があります。
 →「まちだ観光案内人」が四季ごとに草花の魅力を伝えることで、リピーターの獲得につなげていきます。多くの観光客が訪れる時期の需要に応えられる、観光案内人の育成を継続して行きます。
- 課題2：市内で活動している個人や団体の地域への参加の働きかけが必要です。
 →西園のラボ・体験工房は、オープンキッチンやトイレがついており、会議や地域の集会などで利用されています。さらに周知を行い、地域活動への働きかけとなることを目指します。



花柄摘み体験



花しょうぶガイド



ラボ・体験工房

(VII) 里山景観・眺望、みどりを活かした地域づくり

①実施事業

【ハード事業】自然観察路整備 など
 【ソフト事業】山野草観察会、ダリアガイドツアー など



菜の花

【事業による成果】

- 菜の花やそばの花といった景観作物を計画的に栽培し、季節ごとに様々な魅力的な景観を生み出しています。
 →多くの人が散策や眺望の良い景観を求め訪問しています。

②現状の課題

- 課題1：多様な主体の参加により持続的に花やみどりを守る必要があります。
 →利用者アンケートでは草花にどのような楽しみ方を求めているかに対して、「草花を鑑賞したい」や「草花を撮影したい」の割合が高いです。花やみどりを活用した施策や地域づくりが求められています。
- 課題2：花やみどりとのふれあいの機会や人々の交流促進が必要であります。
 →利用者アンケートでは草花に対して鑑賞や撮影の他、「草花や地場産品の商品を使いたい、食べたい」の割合も高いです。自然とのふれあいや人々の交流促進のため、ファーマーズマーケット等の地域に根付いた取組を検討する必要があります。
- 課題3：魅力的な景観を将来にわたって保全するために適切な森林管理が必要です。
 →近年、森林病害虫の被害により、樹木の枯れが多数確認されています。森林景観の悪化にもつながるため、対策が必要です。そのためには、樹木の間伐と育成のバランスが必要です。



そば畑

2-2 環境の変化による新たなニーズ

本計画では、前計画の方針に関する取組と成果とは別に、前計画策定後の社会情勢の変化を捉えた環境の変化による新たなニーズとして下記の視点も加えます。

(Ⅷ) 学びや体験へのニーズの高まり

スマートフォンやタブレットなどのモバイル機器が普及し、個人の体験がSNSなどで共有されるようになり、あらゆる体験が身近に感じられるようになりました。

消費行動は従前の「モノ」「コト」から若い世代を中心に、今ここでしか体験できない、「トキ」を楽しむことに価値を見出すようになってきています。四季彩の杜でも西園の「ラボ・体験工房」で開催される様々なワークショップや講座「やくしの学び」が人気となっています。このことは新たな四季彩の杜の楽しみ方の可能性を広げています。

(Ⅸ) 様々なライフスタイルに合わせた楽しみ方

コロナ禍を経験し、生活が一変したことにより、生き方そのものを見つめ直すきっかけになった人は多いです。社会や地域とのつながり、健康の大切さを再認識した人が増えています。また、テレワークも急速に普及し、場所を選ばず仕事ができるようになりました。

暮らし方に変化が現れ、四季彩の杜に求められる価値が以前より多様化しています。四季彩の杜を一日かけて散策する人、「カフェ・レストラン」でテレワークを行う人、「ラボ・体験工房」のワークショップで地域交流を行う人など、様々なライフスタイルに合った四季彩の杜の魅力を提供する必要があります。



連日開催されるやくしの学び



にぎわう西園のカフェ